

平成 26 年度第 1 回陸上掘削部会執行部会議事録

日時:2014 年 4 月 18 日(金)14:00~17:30

場所:文部科学省 18F 局 1 会議室

出席者:

執行部:井龍康文(部会長補佐/東北大学) 廣野哲朗(部会長補佐/大阪大学)
小村健太郎(防災科学技術研究所) 菅沼悠介(国立極地研究所) 須藤 斎(名古屋大学)
長沼 毅(広島大学)

オブザーバー:木下 肇(J-DESC 会長) 木村 穰 佐伯健太郎(文部科学省)
小笠原 宏(立命館大学) 重松紀生(産業技術総合研究所) 岡田知己(東北大学)
東 垣(JAMSTEC)

事務局:梅津慶太 双木真理子(JAMSTEC)

欠席者:

浅沼 宏(産業技術総合研究所) 公文富士夫(信州大学) 小泉尚嗣(産業技術総合研究所)
中田節也(東京大学地震研究所) 藤原 治(産業技術総合研究所)

MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)

議事次第

1. 前回(131206)議事録確認.....資料 1
2. ICDP 関連報告
 - ・DFDP Alpine Fault 国際ワークショップ.....資料 2
 - ・DAFSAM (Drilling Active Faults in South African Mines)プロポーザル.....資料 3
 - ・ICDP Training Course 2014.....資料 4
 - ・その他(あれば)
3. JpGU 関連報告(地球掘削科学セッション, タウンホールミーティング).....資料 5-1, 5-2
4. J-DESC 将来検討委員会報告.....資料 6
5. J-DESC 総会関連
 - ・昨年度(H25)活動報告の確認.....資料 7-1
 - ・今年度(H26)活動方針・予算・執行体制の確認.....資料 7-2, 7-3, 7-4
(次期体制への申し送り事項の確認)
 - ・陸上掘削部会会則の改訂について.....資料 7-5
6. その他
 - ・報告など(あれば)
 - ・次回日程確認

配布資料

資料 1 前回(131206)議事録(案)	資料 6 #3 将来検討委員会議事録(案)
資料 2 DFDP Alpine Fault ワークショップ報告	資料 7-1 平成 25 年度陸上掘削部会活動報告(案)
資料 3 DAFSAM プロポーザルについて	資料 7-2 平成 26 年度 J-DESC 予算(案)
資料 4 ICDP Training Course 2014	資料 7-3 平成 25 年度収支計算書(案)
資料 5-1 地球掘削科学セッション	資料 7-4 平成 26 年度陸上掘削部会執行体制(案)
資料 5-2 タウンホールミーティング実施概要(案)	資料 7-5 陸上掘削部会会則改定案

議事録

1. 前回(131206)議事録確認.....資料 1

明日の正午を〆切としてコメント等を受け付け、特に何もなければ承認とする。

2. ICDP 関連報告

・DFDP Alpine Fault 国際ワークショップ.....資料 2

重松氏及び岡田氏より、標記の件について報告がなされた。

- ・ 4/7～11 にウェリントンにて実施された DFDP-2 の Planning Meeting に参加した。
- ・ 具体的な掘削計画の進め方について議論し決定した。
- ・ 日本からも参加しコントリビュートすることになっており、特にポスドクや学生へのサポートが望まれる。

合意事項(140418-01) : DFDP の掘削サイトへポスドクや学生を派遣することを今年度の活動方針に組み込み、予算に積み上げる。

・DAFSAM (Drilling Active Faults in South African Mines)プロポーザル.....資料 3

小笠原氏より、標記の件について説明がなされた。

- ・ アメリカが主導して実施してきたプロジェクトを引き継いで進めている。
- ・ 次回の〆切(2015/1/15)に向けてワークショッププロポーザルを作成する予定。
- ・ このプロジェクトを進めるにあたって、J-DESC からどのような支援を受けられるのかについて相談したい。

コメント等

- ・ ワorkshopプロポーザルの前に国内ワークショップを開催して、国内の体制を固めたほうがよいのではないか。そのための経費は J-DESC から支援することができる。
- ・ 金銭的な支援は大きくないが、国内の体制を整えるためのサポートはできる限りしていく。
- ・ 経済的支援については、陸上掘削部会の ICDP プロポーザル作成支援費や J-DESC の会員提案型活動経費
- ・ 11 月 15 日くらいまでにプロポーザルを J-DESC に出してもらえれば、事前にアドバイスすることができる。
- ・ ICDP に対しても事前に日本からプロポーザルが出る可能性があることについて知らせる(部会長より)。
- ・ インターナショナルのチームを作ることが望まれているので、南アやアメリカだけでなく、ほかの国の研究者も入れたほうがよい。
- ・ ICDP からのお金は、掘削にかかるお金しか出ない。目的に合えば OSG (Operation Support Group)を使うことができるが 1,000 万円程度かかってしまう。
- ・ プロポーザルの審査は 4~5 月の SAG の後 6~7 月の EC/AOG にて行われ、その後すぐに使える見込みだが、2ヶ月くらいタイムラグがある場合があるため、ICDP に問い合わせをすることが必要な場合がある。

合意事項(140418-02) : 南アフリカ鉱山掘削へのサポートを今年度の方針に組み入れる。

・ICDP Training Course 2014.....資料 4

- ・ 井龍部会長より標記の件について説明がなされた。
- ・ 今年は 10/6~10 に Alpine Fault のサイトで行われる。
- ・ 第四紀学会の ML で流されたが、国内に対しては毎年 J-DESC を通じて募集を行っており今年も同様の手順を踏む。第四紀学会には訂正のメールを流してもらう。
- ・ J-DESC からは 6/15 の〆切をめぐりに参加者を募集する。

・その他(あれば)

SAG の報告

- ・ 4月2～4日に南京にて会議が開催された。
- ・ 5つのフルプロポーザルと14のワークショッププロポーザルの評価が行われた。
- ・ 日本人がリードするプロポーザルはなく、日本人がプロポーネントに入っているものはオマーンオフィオライト掘削プロポーザルがあった。
- ・ ICDPワークショップ情報
 - 5/16～18: Koyna Reservoir Deep Drilling
 - 9/7～9: Bushveld Complex
 - 9/10～12: Paleogene Sediments of Tanzania

3. JpGU 関連報告(地球掘削科学セッション, タウンホールミーティング)資料 5-1, 5-2

井龍部会長及び事務局より説明がなされた。

- ・ 地球掘削科学セッションは4/30の終日, 160名定員の広い会場で行われ, ポスターと口頭合わせて33件の発表がある。
- ・ タウンホールミーティングはヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 3Fのベイビューという会場にて開催予定。
- ・ 例年 IODP-MI から 10 万円分の飲み物が提供されていたが, IODP-MI が解散したことによりそれがなくなった。IODP 部会側からの提案で, 寄付を集めて飲み物代にすることがメール審議によって決定された。
- ・ IODP 部会側からは寄付の目標を 10 万円とすることが提示されたが, 陸上掘削部会からは J-DESC の負担をなるべく軽減するため 20 万円とすることを提示し, 合意を得た。

4. J-DESC 将来検討委員会報告資料 6

資料 6 に基づき, 廣野部会長補佐より報告がなされた。

- ・ 昨年度全部で3回の会義と会員へのアンケートを行い, 以下のように提言をまとめた。活動は総会の際に正式に報告される。
 - 提言その 1: 海洋・陸上掘削関連の両研究者が集まって人材育成に関して議論を行い, 実務を行う組織を立ち上げるべきである。
 - 提言その 2: 関連する分野の学会との連携を強化する必要がある。
 - 提言その 3: 国際的な認知度と競争力向上のため, サイエнтиフィックな面の強化とボトムアップを行うべき。
 - 提言その 3: IODP 部会は陸上掘削部会と同様に IODP 以外の研究もカバーするかどうかについて, 名称も含めて再検討するべき。
 - 提言その 4: 幹事会の役割が設立当初とは変わってきていることを鑑み, 各部会の組織をスリム化し, 幹事会を執行部と統合する。幹事会の下に設置されている専門部会を執行部の下に設置する。
 - 提言その 5: 理事会の任期に制限を設けるかどうかを検討する。
 - 提言その 6: 企業(賛助会員)に対するメリットの説明を考える必要があり, そのためにも企業との懇談会を少なくとも年に1回開催するべきである。
 - 提言その 7: 新たな会員獲得による裾野拡大のため, 積極的に勧誘を行うべき。
- ・ 組織を運営するための体力(活動資金)を維持するため, コアスクールをうまく使って資金獲得を目指してはどうかなどの意見があり, そのために具体的に動くタスクチームを IODP 部会, 陸上掘削部会横断で設置することを提案の一つとしている。
- ・ 陸上掘削部会としては, 国内で ICDP プロジェクトを実施する際に企業を含めたワークショップを行うなどして産学連携ができるとよい。お金ではなく, むしろ科学掘削での経験が次に活かされるようなものが企業のメリットとなるはずである。
- ・ 繰越金を有効に使うすべを考える必要がある。

5. J-DESC 総会関連

・昨年度 (H25) 活動報告の確認.....資料 7-1

資料 7-1 に基づき、廣野部会長補佐より説明がなされた。

・今年度 (H26) 活動方針・予算・執行体制の確認.....資料 7-2, 7-3, 7-4

(次期体制への申し送り事項の確認)

資料 7-2, 7-3 に基づき、廣野部会長補佐より説明がなされた。

・陸上掘削部会会則の改訂について資料 7-5

事務局より資料 7-5 に基づき標記の件について説明がなされた。

6. その他

・報告など(あれば)

東氏より ICDP EC/AOG 会議について説明がなされた。

- ・ 6月初めにプラハにて開催される EC/AOG 会議に、AOG メンバーの木村穰氏に代わり、出席することになった。
- ・ EC と AOG に出席するにあたり、ICDP 側に説明するべきことや情報収集するべきことがあれば教えてほしい。それに基づいて発言等を行うことができる。

コメント等

- ・ J-DESC 側としては、できるだけ早い段階でワークショップの(決定)情報を共有してもらえるとありがたい。国外のプロジェクトに参加するには、国内の研究者が初期の段階でプロジェクトに関わっている必要がある。

実行項目 (140418-03) EC/AOG 会議で発言してほしいことや、ICDP に対する日本側としての要望があれば事前に東氏に知らせる。

小村委員より会費の件について説明がなされた。

- ・ 防災科学技術研究所の J-DESC 会費について、正会員 A を維持できるように年度末ぎりぎりまで所内で調整してきたが、調整はつかなかった。
- ・ 掘削科学に関係する研究者が 10 名に満たないので、減額の申請をしたい。

合意項目 (140418-04) : 防災科学技術研究所の会費減額申請を認めるとともに IODP 部会にも承認伺いの手続きを行う。

・次回日程確認

7月上旬開催でメールにて調整